

「第2回 インフラ点検ロボット・AIに関する日米の動向調査報告会」 開催報告

1. 開催詳細

日時：2018年8月8日（水）15:00～17:15（受付14:30～）
場所：機械振興会館（〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8）
メイン会場：B2階ホール
サテライト会場：B3階研修-1
アクセス <http://www.jspmi.or.jp/kaigishitsu/access.html>
主催：一般財団法人先端建設技術センター
共催：一般社団法人日本建設機械施工協会
CPD：土木学会認定プログラム 2.3単位（認定番号：JSCE18-0766）
参加費：無料
定員：メイン会場 250名、 サテライト会場 120名

2. 開催概要

14:30～		台風13号の影響が心配される中、受付を開始。 雨の中、多くの参加者にお越し頂いた。
15:00	 <p>メイン会場の様子</p>  <p>サテライト会場の様子</p>	ほぼ定刻に報告会を開始。メイン会場であるホールの定員数を超える申し込みがあったため、サテライト会場を準備し、Liveにて配信した。

15:00～		<p>開会に当たり、当センター理事長より挨拶。</p> <p>国土交通省や政府の取り組みを話題にしつつ、当センターの役割、（一社）日本建設機械施工協会との協調について述べられた。</p>
15:05～		<p>国土交通省近藤課長補佐より、米国調査の意義、目的、今後の国土交通省の施策についてお話頂いた。</p>
15:30～		<p>米国調査報告の 1 題目として、（株）デンソー河内山氏より、点検ドローンの自律飛行技術の最新動向について、報告がなされ、米国と日本の開発に対するモチベーションの違いについて指摘した。</p>



2 題目は、(株) 大林組田島氏による、3D モデリング技術の最新動向についての報告、ロボット導入の迅速さが重要である、との見解を示した。



3 題目は、検写真の 3D 納品ソリューションの最新動向について、(株) 岩崎木下氏より話があり、他分野に比べ投資比率が低く、イノベーションの体制を構築することが重要であるとの報告がなされた。



4 題目は、(株) 日立製作所柿本氏より、画像処理 AI 技術の利活用動向について、報告がなされ、アイデア次第で、生活や産業を大きく変える可能性がまだまだ潜在的にあるとの指摘がなされた。

		<p>米国調査報告としては最後の演題である、革新的な点検ロボット要素技術の研究開発動向について、（一社）日本建設機械施工協会安井氏より報告された。イノベーションを行うには、狭い領域では難しく、多様な目と知を結集させていくことが重要であると報告された。</p>
		<p>米国調査の結果を踏まえ、(国研)土木研究所新田上席より、「建設産業でロボット・AIのインキュベーションを加速するためには？」との問題提起がなされた。事例を交えながら、今後、カギとなる3つのS(Speed up!、Startupの活用!、そしてSand Boxでの実証提案!)が重要であるとの見解を示し、新たな技術を育て、豊かな社会を築いていこう、と最後締めくくった。</p>
<p>17:10～</p>		<p>調査報告会の最後に、共催である（一社）日本建設機械施工協会の田崎会長より閉会挨拶を頂いた。今回の報告内容が今後の建設業の改革につながることを期待しているとの言葉を頂戴し、会を閉会した。</p>

2018年8月8日当日は、台風13号が近付いていたこともあり、公共交通機関への影響も懸念される中、多くの方にお越し頂き、無事に会を開催することができました。

本報告が、今後の建設業のロボット・AI導入を加速させるモチベーションになることを切に願います。今後も（一社）日本建設機械施工協会と協力し、業界のイノベーションの一助となれるよう、取り組んでまいります。

2018年8月吉日 （一財）先端建設技術センター 研究部